

# 造林作業用具の考案について

岡崎宮林署 大津 茂

## はじめに

私たちの班は、基職4名、定期4名の計8名であるが、班全員の気持ちを一つにして、楽しく安全に能率よく仕事を進めるため毎日努力している。

特に、より能率的にと考えながら作業を進めることは、もっとも大切なことと思っている。そこで出来るだけ体力を消耗せずに、しかも合理的な安全作業の方法について、朝のTBMでの班長の指示にも一段と熱が入っている今日このごろである。

今回は、この話し合いの中から、皆んなで考え試作使用している作業用具3点について発表するものである。

## 1. 鎌の砥ぎ台

### (1) 目的

私たちの従事する造林事業は、地ごしらえ、下刈、除伐等すべての作業を通じて鉋、鎌を使用しているが、刃物はよく切れなければ体力の消耗が多くなるばかりでなく、作業能率も低下する。そのため、いつでもどこでも安全な方法で、刃物を砥ぐことのできる砥ぎ台を考案してみた。

### (2) 構造および作成要領

現地で太さ5cm程度のかん木を、長さ30cm～40cmに切断し、片木口の中心から15cm～20cmの割り込みをつけて、ここに刃物をはさみ片方を砥ぎやすいように、削りとるだけで出来上りという簡単なものである。(図-1参照)

### (3) 使用結果

従来刃物を砥ぐときは、片手でしっかりと刃物を固定し、一方の手で砥石を動かすという方法であったが、この砥ぎ台を使用すれば刃物がしっかりと固定されてしまうので、手を切ることもなく安全に砥ぐことができる。

## 2. かかり木引き落とし器

### (1) 目的

私たちの担当区部内では、昭和48年度より、松くい虫被害木の伐倒薬剤散布処理を行っているが、この被害木は、単木的に林内に点在しているため、伐倒作業ではかかり木となる場合が50%程にもなり、それだけに危険度も高く神経を使っている。

また、かかり木となった木は地上に落ちつかせないと薬剤散布処理が出来ないので、安全でしかも能率的な道具によりかかり木をはずす方法として考案した。

(2) 構造および作成要領

直径9mmの鋼棒を22cmの所で「カギ」状にし、また途中にロープ取付穴を作る。これに長さ15m程度のロープを取付ける。この「かかり木引き落とし器」を長さ1.5mの竹竿2～3本連結した先にさし込み、かかり木となった木の幹あるいは枝にかけた後竹竿を抜き取り、安全な位置から地上へ引き落すものである。(図-2参照)

(3) 使用結果

この道具の使用により、かかり木の80%をはずすことが出来た。軽量でしかも携帯に便利であることから、松くい虫伐倒作業にはかかせないものとなっている。

また、かかり木になってからではなく、かかり木となる恐れのあるものについては、伐倒前に「かかり木引き落とし器」をかかり木とならないような方向へロープをひっぱり、切株あるいは立木等に結びつけてから、伐倒することにも応用している。(図-3参照)

### 3. 簡易木廻し器

(1) 目的

「かかり木引き落とし器」だけでは、困難なかかり木の引き落とし用として考案したものである。

(2) 構造および作成要領

直径6mm、長さ1mのワイヤロープで、台付ロープを作り片方に直径12mm、長さ17cmの鋼棒で丸太にひっかかるよう「カギ」状のものを作って取付ける。これに太さ5cm、長さ1.5mの小丸太をさし込み、図のように伐倒木を回転させながら、かかり木をはずすものである。(図-4参照)

(3) 使用結果

「かかり木引き落とし器」との組合せにより、安全にかかり木がはずせることと従来の木廻しにくらべて、軽量であるため林内での携帯に非常に便利で重宝している。

### 4. ま と め

以上、3点について考案してみたが、まだ完全なものとはいえないので、今後とも改良を加えより安全で能率的なものにしていきたいと考えている。

図-1 ナタ・カマの砥ぎ台

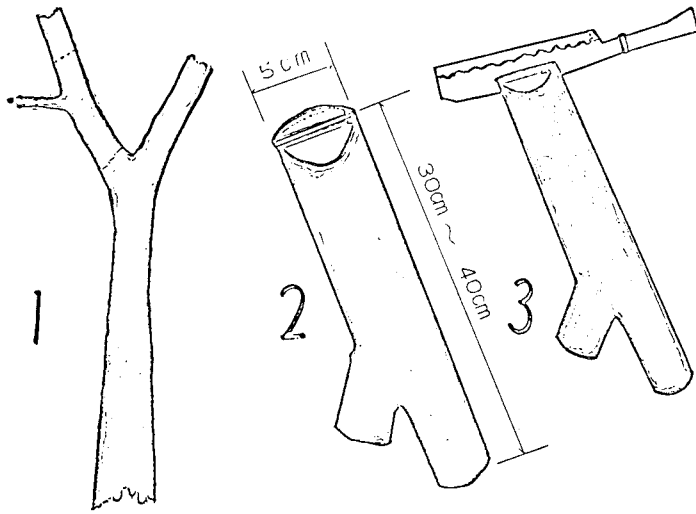


図-2 かかり木引き落とし器

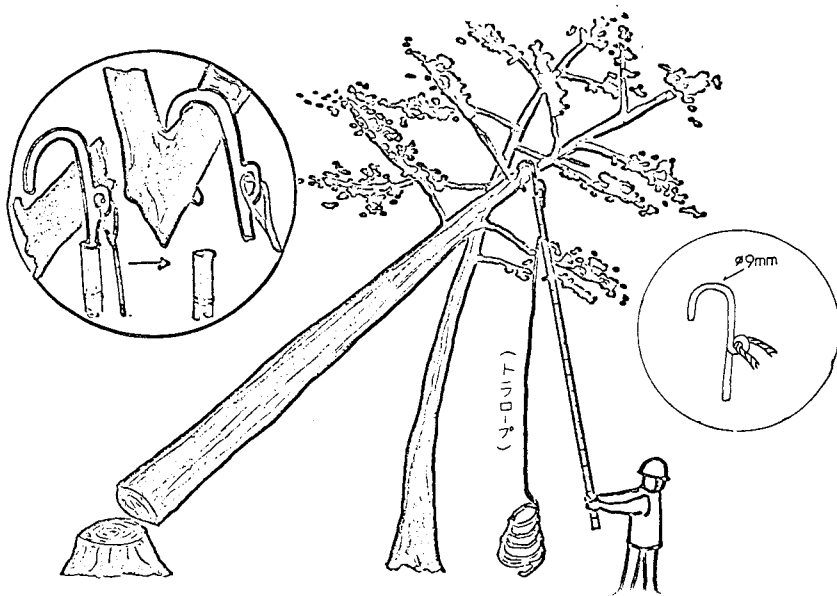


図-3 かかり木引き落とし器の応用

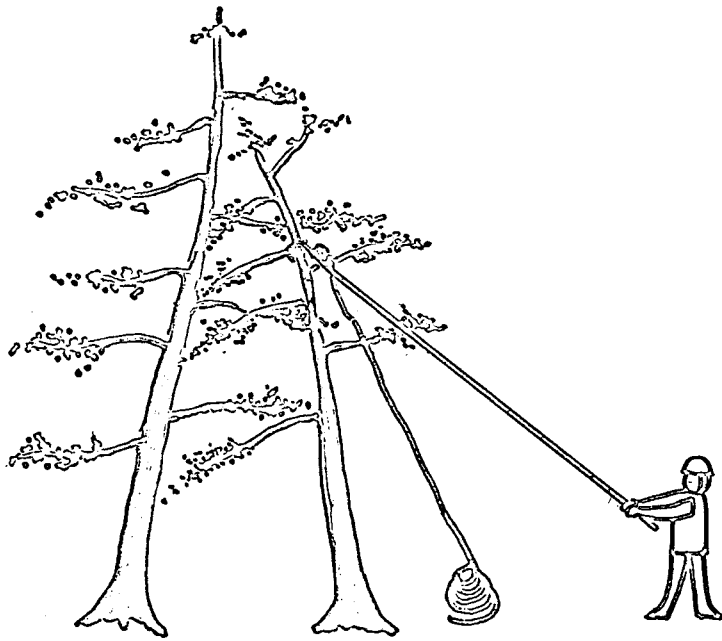
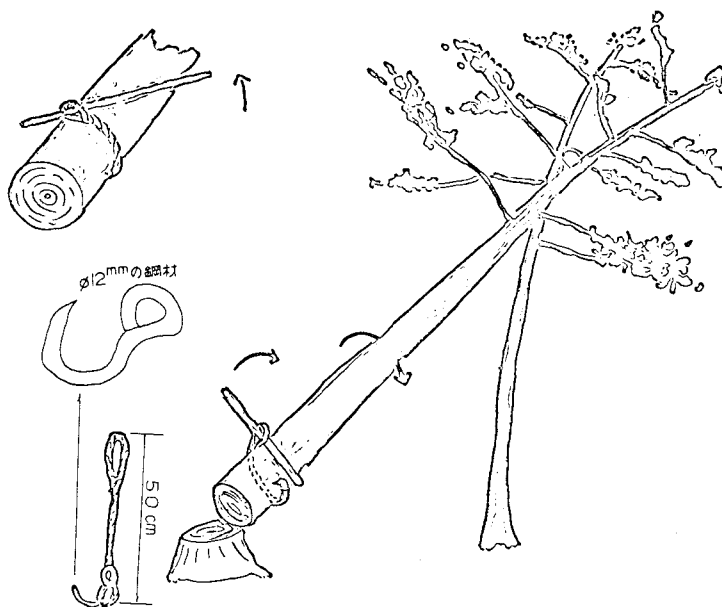


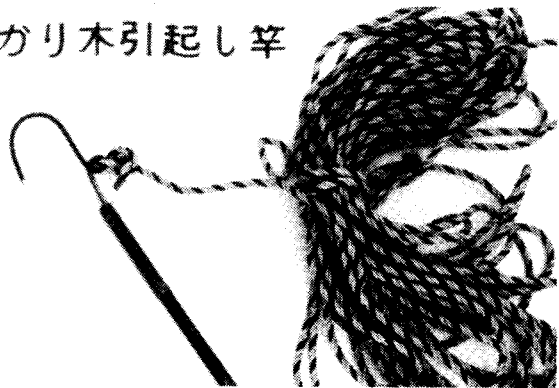
図-4 簡易木廻し器



刃物の砥ぎ台



ガカリ木引起し竿



簡易木廻し器

